

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の結果等について

多治見市教育研究所

平成 30 年 4 月 17 日に、小学 6 年生と中学 3 年生を対象とした調査が実施されました。
なお、実施対象学年における多治見市全体の傾向は次のとおりです。

【小学校】

1 実施教科 国語 A、国語 B、算数 A、算数 B、理科

2 学力調査の結果より

調査を行った教科全て「国語 A（知識）・B（活用）、算数 A（知識）・B（活用）、理科」の平均正答率については、国・県の値とほぼ同等もしくはやや上回っています。

また、各調査結果から今後付けたい力として、以下のことを挙げることができます。

- 【国語 A】 語句の意味を伴って漢字を理解することや習った漢字を積極的に使って書き表すこと
- 【国語 B】 目的や意図に応じて、書く内容を吟味したり推敲したりすること
- 【算数 A】 算数的な考え方を理解して立式したり計算したりすること
用語を理解したり、作図等の技能を身に付けること
- 【算数 B】 複数の情報を関連付けて考え、判断・表現すること
- 【理 科】 観察・実験の方法を身に付けたり、事象の理由を説明したりすること

3 質問紙調査の結果より

質問紙調査において国や県の傾向とは異なった結果（上下に 1 ポイント以上の差があった問い）から主なものをまとめると、以下のようなことがいえます。

<学習習慣>

- ・一日の学習時間は、国・県の結果とほぼ同等です。予習・復習をしている児童の割合は、国・県より高く、自分で計画を立てて勉強をする力が徐々に付いてきています。
- ・テレビやインターネットの視聴時間は、国・県とほぼ同等ですが、読書をする時間は短いといえます。
- ・勉強が大切だと思っていますが、自ら問題に挑戦したり、授業で学んだことを生活に活用しようと考えたりすることには若干の弱さがあります。

<生活習慣>

- ・将来の夢や目標をもっている割合は、国・県を下回っています。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に対する関心がやや低く、地域行事やボランティア活動への参加は、県の結果を大きく下回っています。

【中学校】

1 実施教科 国語A、国語B、数学A、数学B、理科

2 学力調査の結果より

調査を行った教科全て「国語A（知識）・B（活用）、算数A（知識）・B（活用）、理科」の平均正答率については、国・県の値とほぼ同等もしくはやや上回っています。

また、各調査結果から今後付けたい力として、以下のことを挙げることができます。

- 【国語A】意味を伴って語句を理解することや習った語句を積極的・効果的に使って表現すること
- 【国語B】複数の場面や資料を関連付けて教材を読み取り、自分の考え等を書きまとめること
- 【数学A】数学で学んだ用語について、意味を理解したり例を示しながら説明したりすること
- 【数学B】数学的な考え方を駆使して多様な問題解決の方法を工夫したり、見つけた考え方を相手の理解に応じて筋道立てて説明したりすること
- 【理 科】正しい実験の技能を身に付けたり、事象の意味について考察したり説明したりすること

3 質問紙調査の結果より

質問紙調査において国や県の傾向とは異なった結果（上下に1ポイント以上の差があった問い）から主なものをまとめると、以下のようなことがいえます。

<学習習慣>

- ・一日の学習時間は国・県の結果を上回っており、宿題を含め予習・復習を中心によく取り組んでいる傾向があります。
- ・仲間同士で話し合う活動から、考えを深めたり広げたりすることが概ねできています。学習したことを生活の中で活用できないか考える意識には弱さが見られます。
- ・テレビやインターネットの視聴時間は、国・県とほぼ同等です。

<生活習慣>

- ・将来の夢や目標をもっている割合は、国・県を下回っています。
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがやや少なく、地域行事への参加については県の結果を大きく下回っています。

本調査からも、家庭や学校での学習習慣・生活習慣が学力にも大きく関わっていることは明らかであり、『習慣』は、意識して努力を続けることにより必ず改善できます。

ご家庭におかれましても、多治見市型幼保小中一貫教育『習慣向上プロジェクトたじみプラン』に基づき、生活習慣・学習習慣の向上を図るとともに、子どもの自立「子育て」を支える教育の推進にご協力をお願いいたします。